

令和2年度版 改善計画

学校名：甲府市立羽黒小学校

No.	項目	現状と課題	R3年度に目指すべき状態	①R2年度に実施する内容 ②R3年度に向けて検討する内容	達成状況
1	会議等の効率化	職員会議の議案が多く、時間内に終了することができない現状がある。	会議の所要時間を原則1時間以内とする。	①協議事項と連絡事項の峻別を行い、連絡事項を終礼などに振り分ける。 (新校務システムの掲示板等も有効利用していく) ②事前提示された資料を熟読し、必要な質疑応答や討議に集中する。	
2	学校行事の負担軽減	各行事の目的、教育的効果、行事間の連携等を再検討し、行事の見直しを行う必要がある。	各行事の目的、教育的効果を考慮し、適切な業務量に軽減するするとともに、教育効果を高める。	①行事に関わる取り組み時間を、必要最小限で行うための工夫をする。 ②各行事の反省点をもとに実施要項等を整備・改善し、次年度の業務量を軽減する。(前年踏襲からの脱却を意図し、より効率的な実施形態を目指す)	
3	校内組織の見直し	業務分担を明確にし、協働体制を構築する。	分掌内で業務が特定の教員に過剰負担にならないよう、業務内容を分析しながら、業務の平準化を図る。	①各分掌内業務の役割分担等を明確し、出張も分担するなど協働体制を確立する。 ②業務運営が効率的・効果的に行われるよう、校務分掌の再編・統合等の見直しを行う。(教務主任に集中している業務をさらに見直ししていく)	
4	業務の効率化	毎日定時に退勤することができず、超過勤務になってしまう教員が多い。	出退勤時刻管理の取組から、自身の状況を見つめさせ、改善の契機とする。	①業務の効率化を図るために、業務の分担表と工程表により、「いつ、だれが、どのように」取り組めばよいのか、見直しをもって取り組む。 ②実施したほうがよいことでも、あえて削減する姿勢で、業務の見直しを行う。	
5	部活動の負担軽減				
6	地域人材の活用	学校応援団の活用など地域人材の活用に努めている。	地域の学校支援体制を見直し、地域との連携を深める。	①行事、授業等への地域人材(学校応援団等)の活用に努める。 ②PTAや学区の自治会と連携して、地域人材の発掘を図る。	
7	(学校独自の項目)	教材研究の有効活用し、教材研究の時間を削減し、授業の充実につなげる。	学年間で教科担任制を導入する。それにより、一度の教材研究で複数時間の授業に使える。授業が洗練され学力向上になる。	①学年間で時間割を作成する際に、教科担任制を意識する。 ②年間を通して難しいようなら、單元ごとの教科担任制も積極的に導入する。	
8	(学校独自の項目)	校内研究会に関わる時間の削減。	校内研究会に関わる時間を削減し、効果的な教師の指導料向上に努める。	①毎回の校内研究会を研究主任が中心になって運営するのではなく、分担して運営する。 ②講師を招聘して研修方式で行う。 ③授業は評価授業(管理職の観察)を参観して研究会で意見を述べ合う。	

●R2年度における「きずなの日」の年間回数(予定) 21 回

※達成状況：次のA～Dで評価し、各年度末に県立学校は県教育委員会へ、公立小中学校は市町村教育委員会へ提出する。

A 達成できた B ある程度は達成できた C あまり達成できなかった D 達成できなかった

※様式は、必要な項目が含まれていれば、適宜、変更して使用して差し支えないこと。

